

事業報告書（令和6年度）

事業名 「Well-being（ウェルビーイング）向上プロジェクト “人は人によりて人となる”

団体名 特定非営利活動法人 国際協力研究所・岡山（ICOI）

担当者名 竹島 潤

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

◆Well-being×国際【SDGs4・17】

- ・7/20（土）International Meeting Summer 2024（中学生オンライン国際交流事業）

岡山県内中学生と海外ゲスト6か国合計約30名が全体会・グループ別交流などを英語でオンライン交流。ブレイクアウトは1グループ「中学生2～3名+海外ゲスト等3名」で、各国や故郷のこと、自分の趣味や特技、学校生活などについて歓談した。



- ・10/1（火）日豪親善友好歓迎会

岡山市瀬戸町と南オーストラリア州における教育交流をバックアップ、同国アデレード近郊よりご来日・来岡されたHayley Moat先生（南オーストラリア州Golden Grove High School／日本語＆スペイン語教師）の歓迎会を岡山県・南オーストラリア州友好協会と連携開催、学校訪問や交流・会談の関係者で懇親を深めた。



- ・10/4 おかやま国際貢献月間／NGO フェア

岡山県「国際貢献月間」に国際交流センター1階ロビーで「ICOI コーナー」として、特別展やチラシ・パンフレット設置により広報啓発を行った。

- ・12/8（日）国際講座「日独青少年指導者セミナー帰国報告会」

岡山市立操山公民館にて竹島代表を話題提供者に、日本とドイツの「青少年支援・育成」「メディアリテラシー教育」をテーマに青少年指導者・学校教育関係者・公民館職員・地域の方など約20名が参加、情報・意見交換した。

- ・12/23（土）International Meeting Winter 2023

7カ国14名の海外ゲストと岡山県内6中学校21名がオンライン交流した。7グループに分かれてのブレイクアウトでQ&Aや母国（地元）紹介プレゼンをしあった。

- ・2/16（土）International Friendship Party 2025@ Saidaiji

第五百五十六会西大寺会陽（国指定重要無形民俗文化財）の鑑賞、参加も交えた国際交流イベントを行った。海外はドイツ、フィリピン、アメリカ、スイス、ネパールなどから来日・来岡されたゲストたちと日本文化体験を通じた親善活動を行った。

◆Well-being×平和【SDGs10・16】

- ・2/24(月祝) ウクライナ支援@ Peace for Ukraine

NPO ユーラシア主催「キャンドルイベント」に協力参加、ロシアによるウクライナ侵攻3年の節目、岡山駅地下広場で募金・呼びかけ活動を行った。



- ・5/15(水)～5/18(土) 山本宗補パネル写真展「震災から何を学びますか?～能登半島大震災から4ヵ月、東日本大震災から13年。教訓とは何か?～」と「ふくしま現地活動報告会&山本宗補氏メッセージ紹介」として、能登半島大震災及び東日本大震災・原発事故、福島県双葉郡浪江町「希望の牧場」での第17次現地活動を報告。「教訓とは何か」をテーマに災害や教育、平和について考える機会とした。

◆Well-being×アジア【SDGs 4・17】

- ・9/1(日) R6 フィリピン現地活動報告会「ミンダナオと私を繋ぐもの」

オンラインで7月のフィリピン現地活動について公式報告、関係者・一般の方々約30名が参加。フィリピン共和国ダバオ総領事館・石川義久総領事より来賓挨拶:「近現代史/歴史をしっかりと学び、平和のありがたみを真剣に考えること」「世界に目を向け、国際社会の中で考え・行動すること」の重要性を確認。

- ・12/28～12/31 日中青少年交流促進団(中学生大使)事業

事前事後研修会及び、中国・上海に中学生大使8名を引率、歴史文化研修と現地学校訪問で青少年交流活動を行った。

- ・2/14(金) ミンダナオ子ども図書館(MCL)岡山講演会「今こそ、日本で大切にしてほしいこと」

来日中の現地NGO「ミンダナオ子ども図書館」(MCL)の松居友代表・松居陽ディレクターによる講演会を蔭涼寺にて開催、参加者約30名。【第1部】ミンダナオの自然、子どもたち、20年以上にわたるMCLの活動を写真と動画で紹介。



【第2部】松居代表から「ちまた」「子育て」「友だち」「生きる力は愛情と友情から」をキーワードに話題提供と懇談。

◆Well-being×市民【SDGs 4・16】

- ・岡山市立公民館巡回パネル展示

5/20～6/2(日) 東公民館 6/7～6/16(日) 大元公民館 6/20～6/30(日) 福田公民館
7/16～7/23(火) 上南公民館 7/27～8/8(木) 旭東公民館 9/2～9/14(土) 操南公民館

- ・9/23(月祝) 第11回おかやま環境教育ミーティング/ブース出展

SDGs視点の活動についてパネルと訪問者への声掛けにより説明。

- ・9/29(日) 能登! Not Alone!! 現地ボラ&事後活動オンライン報告会
石川県奥能登地方(珠洲市・輪島市・能登町)での現地ボランティア活動を行いその事後報告会。一般・関係者等約20名が参加。現地NPOやボランティア団体と連携。

- ・1/22(水) 教育パネリディスカッション「日本型教育の『タブー』」に斬りこむ



“スパルタ” タイム!

戸塚ジュニアヨットスクール校長・戸塚宏氏をゲストに、登壇者と参加者が「今の教育は本当に子どものためになっているか」「どうすればよいか」について共に考えた。

◆Well-being×人権【SDGs 5・10・16】

・8/19(月)「複業」「越境」をテーマに拡大学習会

理事・会員・一般等約15名が参加。ゲスト講師：前田央昭氏から『複業』『越境』の可能性を届けたい!と題してご講義、情報・意見交換。

・10/6(日)日ネ親善・スポーツ交流会「Enjoy!フットサル&ナマステ」



玉野市宇野フットサルコートにて、ネパール学生・地元サッカー少年少女・一般・関係者等約50名で開催。ネパールご出身の学生たちは岡山、倉敷、福山など在住の高校生・専門学生・大学生ら約15名。玉野築港サッカー少年団の小学1年～6年生や地元中学生の皆さんとスポーツ交流、多文化共生の基本は「笑顔と人権」であることを参加者全員が実感できた。

2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

非営利セクターやSDGs推進視点の活動、海外や現地現場の実状・事例から、岡山で持続可能な地域や社会を創る上での示唆を得られると気づき、「できることから参画してみよう」という思いが促された。Well-beingは多様性への寛容さ、各自のアクションにより次第に満たされていくことに気づけたのではないかと。文化・平和・人権・環境などのテーマ設定、現場・当事者との繋がりを生かした活動などを通して、中学生や20～30代の青少年層の、持続可能な未来づくりに参画してみようという気持ちを高められたのではないだろうか。

② どのように学び合いを取り入れたか

事業に関わる多様な関係者が、SDGs4「質の高い教育」の大切さに気づき、学び合えるよう、話し合い活動やスポーツや伝統行事等、交流内容を工夫した。「場づくり」、グループやメディアを活用した発信、相互フィードバックによるリフレクションなどの学びのプロセスにおけるWell-beingも目指した。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

これまで同様、気づきや学びを得たユース世代、海外ゲストたちが、社会に提案・発信などをする場づくりに努めた。様々な切り口や現代的課題を取り扱うことで、多様な学び手が発信や支援活動を行うきっかけ作りとなるようにした。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

現在、注目されているテーマや当事者の声に耳を傾けることで、多様な価値観や個人の幸せ（ウェルビーイング）とは何か、問題提起できた。また、Well-beingは与えられるものではなく、自らが周囲との相互作用で、とよりよき「人」としてアクションを起こすこ

とで満たされていくものだと感じる人も増やせたのではないかと。各事業への参加者からは「専門家や行政、企業などに任せるだけでなく、自分が行動を起こしたい」「中・高・大学生の世代でも地域のためにできることがある」「関心のある NPO 活動に参画したい」などの声が寄せられた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

本市は ESD for SDGs 視点でさまざまな個人・団体がアクションを起こしており、その主体が繋がりあうことの必要性をさらに感じる。来年度は岡山市で国連 RCE 会議も開催予定であり、岡山から「持続可能な社会づくり・発展のための教育」と SDGs 達成に向けたアクションへの再スタートを発信する好機である。当 NPO の強みを生かし、引き続き青少年育成の視点を重視したり、さまざまな現代的・社会課題をテーマに問題提起や学びの共有がなされる機会づくりを行いたい。そして、「豊かに生きる」という「Well-being」の感覚を持てる活動や事業を興していきたい。

当 NPO におけるアジア諸国との交流も促進されつつあるので、フィリピン、ベトナム、ネパール、タイ、中国などとの ESD 協働活動を行うことで、ここ岡山から「アジア版 ESD for SDGs」のような新しい視点での地域・社会貢献ができればと考えている。